

「ブレンツキシマブ ベドチン+AVd 療法」について

この治療法は、ホジキンリンパ腫に対する代表的な治療法です。この治療法ではブレンツキシマブ ベドチン、ビンブラスチン、ドキシソルビシン、ダカルバジンの4種類の治療薬が使用されています。

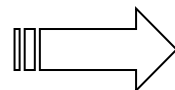
1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間	1日目	15日目
パロノセトロン+ デキサメタゾン	吐き気止め	15分	○	○
ビンブラスチン	抗がん剤	15分	○	○
ドキシソルビシン	抗がん剤	30分	○	○
ダカルバジン	抗がん剤	30分	○	○
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分	○	○
ヒドロコルチゾン	アレルギー予防	15分	○	○
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分	○	○
ブレンツキシマブ ベドチン	抗がん剤	60分	○	○
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分	○	○

2. スケジュール

ブレンツキシマブ ベドチン+AVd療法は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日と15日目に抗がん剤を投与すると残りの13日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目			
	1日目	2～14日目	15日目	16目～28日目
投与日	○	—	○	—
休薬日	—	○	—	○



3. 特徴

●ビンブラスチン

作用: がん細胞が分裂する際の「微小管」のチューブリンというタンパク質に作用して抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●ドキシソルビシン: 赤い色をした注射薬です。

作用: がん細胞の DNA に入り込み抗がん作用を示します。

注意事項: ①点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

②点滴後1～2日間くらい尿が赤色になることがありますが心配ありません。

③心臓に疾患がある方や既往のある方はお知らせください。



●ダカルバジン

作用:がん細胞の DNA に入り込み抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、かゆみ、発疹、咳、虚脱感、口の周辺の腫れなどが現れたときは早めにお知らせください。

●ブレンツキシマブ ベドチン

作用:がん細胞の表面にある CD30と呼ばれるタンパク質に結合して、がん細胞の内部に薬物を送ることにより、がん細胞の増殖を抑制します。

注意事項:点滴中に発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、かゆみ、発疹、咳、虚脱感、口の周辺の腫れなどが現れたときは早めにお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

白血球減少



白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる役割(免疫反応)があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期:抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

対策:細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。

脱毛

好発時期:2～3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

対策:症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、
症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。



対策: 抗がん剤の注射を行う場合は事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。
考えすぎるとそれだけで症状が出てくる可能性があります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

しびれ(末梢神経障害)

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経を傷害することで発症します。症状は手、足先から出てくるが多く、しびれ、
感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が足に出るとつまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合
治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる(数ヶ月～1年)場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方する
こともあります。

好発時期: 抗がん剤点滴終了後数日でもありますが、多くは数日～数週間の間に起こりやすくなります。

自覚症状としてはボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまずきやすいなどです。

対策: 早い時期に発見した方が回復も早いため、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用するなどです。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

便秘

好発時期: 当日～数日間程度、起こることがあります。

主にビンブラスチンが末梢神経の働きを傷害することで腸管の運動が妨げられた結果、便秘になると
考えられます。

便秘が続くとそれが原因で吐き気や食欲不振を起こすこともあります。

対策: 水分は多めに摂取し、食物繊維を取るようしてください。

症状が苦しいと感じたら下剤をお出しすることも可能なのでご相談ください。

静脈炎

ダカルバジン点滴中に血管に沿って痛みを伴うことがあります。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接傷害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によって起こる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触れるとザラザラするなど)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹などです。**できやすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期: 抗がん剤投与後、1週間前後くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外にも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭など)はその都度行うとよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩: 4. 5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2~3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎ができてしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎ができてしまった場合はご相談ください。

水疱や白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起し機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



注射時反応(Infusion reaction)

好発時期: プレンツキシマブ ベドチンの注射が開始になってから24時間以内に現れやすい症状です。

対策: 点滴中に発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、かゆみ、発疹、咳、虚脱感、口の周辺の腫れなどが現れたときは早めにお知らせください。帰宅後も起こる場合がありますので、異常を感じたらご連絡ください。

アレルギー

好発時期: 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、**息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹が出る、汗が出る**などです。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまうこと(漏出)がまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。

好発時期: 点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状が出た場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500